

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-002	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Probability and predictors of transition from abuse to dependence on alcohol, cannabis, and cocaine: results from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions. アルコール、大麻、コカインの乱用から依存症へ推移の可能性と予測因子：アルコールおよび関連疾患の米国内疫学調査(NESARC)結果		
執筆者		
Flórez-Salamanca L, Secades-Villa R, Hasin DS, Cottler L, Wang S, Grant BF, Blanco C.		
掲載誌		
Am J Drug Alcohol Abuse. 2013 May;39(3):168-79. doi: 10.3109/00952990.2013.772618.		
キーワード		PMID
推移、乱用、依存症、大麻、アルコール、コカイン		23721532
要 旨		
<p>目的： 薬物乱用から依存症への推移に関しては研究が少ない。本研究の目的はアルコール、大麻、コカイン乱用者を対象に依存症への累積推移率を推計し、過剰使用から依存症へ推移する予測因子を同定することにある。</p> <p>方法： アルコールおよび関連疾患の米国内疫学調査(NESARC)の一部を対象に解析を行った。対象はアルコール乱用者 7,802 人、大麻乱用者 2,832 人、コカイン乱用者 815 人である。乱用から依存症への累積推移率の推計には標準的生命表法を用いた。時間変動変数を用いた離散時間型生存解析を用いて依存症への推移予測因子を同定した。</p> <p>結果： 生涯のある時期に乱用者から依存症へ変わる生涯累積推移率はアルコール乱用者で 26.6%、大麻乱用者で 9.4%、コカイン乱用者で 15.6%であった。推移者の半数はアルコール乱用開始の 3.16 年後、大麻乱用開始の 1.83 年後、コカイン乱用開始の 1.42 年後に依存症になった。検討したすべての薬物について社会人口学的因子、精神病理学的因子、薬物使用関連因子のいくつかは乱用から依存症への推移を予測した。</p> <p>結論： 乱用者の大半は依存症へとは推移しなかった。依存症への生涯累積推移率はアルコールが最も高く、次のコカインで、大麻は最も低かった。乱用開始から依存症への推移期間はコカインが最短で、次に大麻、アルコールの順となった。依存症への予測因子はあるものはすべての薬物で共通にみられ、また他に特定薬物特有の予測因子があった。</p>		